



今後の

社会の変化に

対応した

多様な

体験活動事例集



文部科学省

はじめに

今、我が国は、「人生100年時代」や「超スマート社会（Society5.0）」と言われる変化の激しい時代を迎えています。こうした社会の大転換を乗り越え、一人一人が豊かに生きていくためには、生涯にわたって質の高い学びを重ねて、成長し、多様な他者と協働しつつ、感性や創造性を発揮して新たな価値を生み出す力を身に付けることが必要であり、教育が果たす役割は大きいと考えます。

平成30年6月に閣議決定された「第3期教育振興基本計画」においては、「子供の健やかな成長のためには、豊かな心を育むことが不可欠であり、このため、豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、自己肯定感・自己有用感、他者への思いやり、対面でのコミュニケーションを通じて人間関係を築く力、困難を乗り越え、物事を成し遂げる力、公共の精神等の育成を図るとともに、日本の伝統や文化を継承・発展させるための教育を推進することが重要である。」とされており、社会体験活動や自然体験活動等も含め、児童生徒の多様な体験活動の機会を充実することの必要性を求めています。

文部科学省では、上記の経緯を踏まえ、「今後の社会の変化に対応した様々な体験活動事例集」を取りまとめました。

この事例集には、各都道府県・政令指定都市・市区町村が実施する推薦事例の中から特色ある事例を選定し、「農林漁業の理解を深める体験活動」「多文化共生（ダイバーシティ）の意識を高める活動」「地域間交流・地域間協働を推進する体験活動」「主権者意識を高める活動」「様々な環境下で幼児の主体性を育む体験活動」の区分ごとに掲載しております。

事例集の発行に当たり、事例の推薦・執筆に御協力いただきました関係者の皆様、事例の選定に御協力いただきました有識者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、本事例集が、社会全体で体験活動の様々な機会を創出し、推進する契機となれば幸いです。

令和2年3月

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課

ひのき教室

野田市関宿中央公民館

【千葉県】

活動概要

対 象 市内の就園前の子どもとその保護者
(市報、ホームページ、チラシ、ポスターで募集)

参加人数 平成29年度延べ661人、平成30年度延べ781人

活動時期 6月～1月、全12回

活動場所 野田市関宿中央公民館

連携協力 千葉県立清水高校、野田市消防署、野田市立関宿南部幼稚園、劇団「ふうせん」、保育ボランティア「ぴいたあぱん」

背景目的

昭和50年に旧関宿町において公立幼稚園が開園した際、入園前の備えや集団になじめるよう開始した。親子の絆作りや子どもの社会性を培うことを目的として実施。

5月に申込みをし、6月の開講式・レクリエーションから、1月のお店屋さんごっこ・閉講式まで、全12回の楽しさいっぱいのプログラムを経験する。

主な取組

講師を中心に、年間で計12回、「自然体験」、「生活・文化体験」、「社会体験」のそれぞれに関する、親子参加での遊びや創造活動を行う。親子での運動遊び等の活動も実施している。

(活動の内容例)

【自然体験】館外バス遠足(公園)

【生活・文化体験】七夕飾り作り、しゃぼん玉作り、人形劇、クリスマス会、音楽鑑賞

【社会体験】お店屋さんごっこ、館外バス遠足(工場見学)



特徴

親子参加型の活動を通じて、良い親子関係作りとともに子どもの社会性を育てる

様々な活動があり、全て親子参加型であることが、良い親子関係作りに役立っている。

子どもについては、回を重ねるごとに、大きな声で挨拶や返事をし、親から離れ一人遊びや片付けができるようになっている。

保護者には、毎回教室終了後に「子育て日記」に学習の内容、感想、悩み、相談などを記入してもらっている。教室終了後の親同士の交流も見られるようになった。

成果・展望

各回の活動が単に楽しむだけに終わらず、年間の諸行事に合わせた活動を通しての社会性を育てたり、親同士の交流、情報交換の場として、子育て支援の役割を果たしている。